

令和5年度公開臨海・臨湖・センター実習 実施計画書

実習タイトル	公開臨湖実習 1 巨大湖の生態系と環境問題－霞ヶ浦での調査・実験から理解する		
<p><実習内容></p> <p>日本第2位の面積を誇る巨大湖「霞ヶ浦」は、首都圏に位置しているがゆえに、河口堰設置、水質悪化、湖岸開発、水辺植生の劣化、外来種の侵入など多岐にわたる環境問題を経験してきたが、現在でも国内有数の漁獲量を維持し、高い生物多様性を有する豊かな湖である。本実習では、霞ヶ浦をフィールドに環境や水生生物の調査を行い、湖沼の環境と生物科学の研究手法を身につける。さらに、霞ヶ浦が海であった数万年前から現在までの環境変遷、人の生活によってもたらされる環境変化が生物群集や生態系に及ぼしている影響、湖沼の環境問題の現状、水質対策やその技術などについても実際にフィールドや室内実験で体感しながら学ぶ。</p> <p><実習項目></p> <p>(1) 環境調査:船上での水温、透明度、溶存酸素量等の水質調査、クロロフィル量や栄養塩分析等 (2) プランクトン・底生動物調査:湖心部や沿岸部でのプランクトンネットやエクマンバージ採泥器などを用いた採集、顕微鏡を用いた観察・標本作製・同定・計数 (3) 湖底堆積物分析:粒度分析、データ解析 (4) 魚類調査:地曳網、投網、定置網等を用いた定量採集、魚類の食性調査と食物網の解析 (5) 外来生物調査:チャネルキャットフィッシュの釣獲調査 (6) 霞ヶ浦における水質対策についての講義と水処理技術に関する活性汚泥を用いた室内実験</p>			
実習内容キーワード	富栄養湖、船上調査、プランクトン、底生動物、魚類、湖沼生態系		
担当教員氏名・所属・役職名	加納光樹・藤田昌史(教授)・中里亮治(准教授)・山口直文(講師)・新任教員(助教) 茨城大学地球・地域環境共創機構(GLEC)		
協力教員氏名・所属・役職名	なし		
対象学生・学年	学部生 (院生も可)	開講期間	2023年8月22日(火)～26日(土)
開講大学・施設名	茨城大学 GLEC・水圏環境フィールドステーション(水圏FS)		
施設の住所	〒311-2402 茨城県潮来市大生 1375		
電話	0299-66-6886	Fax	0299-67-5175
e-mail	suiken@ml.ibaraki.ac.jp	Web Site	http://www.cwes.ibaraki.ac.jp/
交通案内	高速バス停留所「水郷潮来(東京駅から1時間20分、片道1850円)」から路線バス(約40分、200円)もしくはJR延方駅から路線バス(約10分、200円)で「大生原公民館前」下車、そこから水圏FSまで徒歩で約5分。		
費用	宿泊費と食費で約17,000円前後 宿泊先は公共研修施設レイクエコー(水圏FSからバスで10分) 前泊・後泊が必要な場合は事前に別途相談		
授業科目名	臨湖実習		
単位数	1単位 (院生の場合、所属大学院での単位認定不可)	定員数	10名程度
授業料の徴収について	国立・公立・私立大学を問わず不徴収。		
受講生選抜基準と申し込み締め切り	<p>先着順。申し込み締め切りは6月30日(金)。定員に満たない場合は追加募集を行う。申し込み状況の問い合わせはE-mailで。</p> <p><u>新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの開催や中止となる可能性があります。開催の可否、実習内容、日程等については、当施設ホームページにて最新情報を必ず確認してください。</u></p>		
選抜結果連絡法	所属大学学務へ郵送、および申し込み学生へE-mailで通知。		